

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および9月4日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は、1969年（昭和44年）に「兵庫県立リハビリテーションセンター附属中央病院」として開設されて以来、兵庫県立総合リハビリテーションセンターの中核施設として、障害者の自立と社会復帰を支える先駆的な医療・福祉連携を実践してきた。2002年には回復期リハビリテーション病棟を開設し、現在は3病棟・150床の体制で運営している。主に脳卒中などの脳血管疾患や大腿骨骨折、人工関節置換術後といった整形外科疾患を対象に、急性期病院との連携を通じて円滑な移行を図り、早期在宅復帰を目指した多職種協働のリハビリテーション医療を提供している。また、在宅や地域とのつながりを重視した支援体制を整えるとともに、FIFA公認のスポーツ医学・科学センターを併設し、障害のある方だけでなくアスリートに対する専門的支援も展開している。医療・福祉・教育・就労支援が一体となった複合施設群との連携により、県のリハビリテーション医療の中核拠点として多面的な役割を果たしている。

今回の受審を契機として、回復期リハビリテーション病棟において進めてきた業務改善が、さらなる質の向上につながり、貴院がますます発展されることを期待する。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院の理念と基本方針に沿って2024年に回復期リハビリテーション病棟の運営指針を策定し、多職種協働による運営体制を確立している。リハビリテーション科専門医に加え、整形外科・神経内科・総合内科の専門医が配置され、社会福祉士、管理栄養士、薬剤師、公認心理師、歯科医師、歯科衛生士も加わるなど、幅広い専

門性を活かしたケアが可能となっている。病棟運営は多職種で構成される全体会議で課題を検討し、病院運営会議を通じて意思決定が共有されている。安全管理面ではセーフティマネジメント委員会と各プロジェクトチームが活発に活動し、急変時にはQQ コールやシミュレーション研修により迅速対応できる体制を整備している。

質改善では、データ収集・公開に加え SIG 活動を通じた退院後調査も行われ、モバイル端末導入など具体的な改善策も導入されている。教育研修は組織的に運営され、認定看護師やセラピストマネジャーが中心となり実践的研修を展開している点も評価できる。地域連携では入院判定会議や地域連携パス、退院前合同カンファレンスを通じて急性期から在宅への切れ目ない支援が行われ、障害者病棟や自立生活訓練センターとの協働により多様な患者ニーズに込えている。感染対策の手順統一やプライバシーに配慮した環境整備などが今後の課題として挙げられる。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

各職種が専門性を発揮し、患者に必要なリハビリテーション・ケアを多面的に支えている。医師は障害や原疾患を踏まえた個別的な処方や指示を行い、リハビリテーション科専門医による装具診や他分野とのコンサルト体制も整備されている。さらに、学会発表や論文執筆など学術活動も活発であり、専攻医の受け入れによる人材育成にも力を入れて取り組んでいる。看護師は認定看護師を中心に教育活動を展開し、毎日のカンファレンスや ADL 支援カンファレンスで情報を共有しながら実生活を意識したケアを実践している。介護福祉士の役割明確化や教育システム整備は課題として残されている。療法士は標準的評価シートを活用し、先進的機器や自助具作製、自動車運転再開支援まで幅広く対応している。

認定資格を有する職員が多く、キャリアラダーや独自の卒後教育で能力開発を推進している点は評価できる。社会福祉士は専従配置を含む体制で入院時から関与し、地域資源を活用した退院支援を展開している。管理栄養士は全病棟に専任配置され、MUST・GLIM に基づく評価や NST 活動などを通じて専門性を発揮し、研修チームを立ち上げるなど組織的な教育にも取り組んでいる。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院当日から医師・看護師・療法士をはじめとした多職種が初期評価を実施し、1 週間以内に開催される入院時カンファレンスで ICF に基づいた評価と患者・家族の希望を踏まえた短期・長期目標を設定している。その後も月 1 回の定期カンファレンスや 2 週ごとの ADL 支援カンファレンスで進捗や課題を検討し、必要に応じて嚥下・排尿などの専門カンファレンスで補完する仕組みを整えている。訓練は 1 日平均 6 単位提供され、疾患別リハビリテーションに加え、自主練習や OT グループワークといった集団活動も行われている。薬剤師や管理栄養士に加えて、必要に応じて公認心理師、歯科衛生士なども参画し、服薬・栄養・心理・口腔ケアの側面から支援を行うなど、幅広い専門性を活かしたチーム医療が展開されている。さらに、モバイル端末を導入し、トーク機能や写真・動画共有でタイムリーな情報連携

が進んでいる。

退院支援では、入院時スクリーニング、退院前訪問、外泊訓練を通じて家族の介護能力や生活課題を明確化し、合同カンファレンスで検討されている。復職・復学支援では、能力開発課や自立生活訓練センターとの連携に加え、運転再開に向けたシミュレーターと実車評価の体制も整備されている。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	II
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	II
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	II
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	II
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	II
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	III
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	II
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	II
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	II
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	II
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	II
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	II

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	II
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	III
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	III
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	I
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	II
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	II

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅲ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	II
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	II
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	II
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	II
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	II
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	II
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	II
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	II